

編集委員長からのご挨拶

RMB (Reproductive Medicine and Biology) 誌は、2020 年に初めてのインパクトファクターを獲得いたしました。その後、インパクトファクターは堅調に推移し、最新のデータでは 2.7 となっています。この値は産婦人科分野では Q2 ランクの最上位に位置するものであり、今後は、アメリカの Fertility & Sterility、ヨーロッパの Human Reproduction といった Q1 ランクのジャーナルと比肩できるアジアの Reproductive Medicine and Biology の位置を目指して参ります。

RMB 誌は、2002 年に日本生殖医学会、日本受精着床学会、日本アンドロロジー学会のオフィシャル・ジャーナルとして発刊されました。2016 年にはアジア子宮内膜症学会が、2020 年には日本卵子学会も加わりました。投稿論文数は右肩上がりに増加し、現在年に 60 編以上の質の高い Invited Review や Original Article が掲載されています。2022 年の Volume21 から 1 年 1 号の発刊とし、アクセプトされた論文は随時オンライン上で掲載されています。また 2002 年の創刊号から掲載されている全ての論文が PubMed 上で検索できるようになっています。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/3326/>

さらに 2022 年からは“Virtual Issues”を発行しています。これは注目のトピックに焦点を当て、既掲載論文をピックアップし再編した特集号となります。“Virtual Issues”には適宜新しいトピックが追加され、また既存のトピックにも論文が追加されていきます。ホームページの“BROWSE”をクリックすると“Virtual Issues”があります。最新の知見を得るためには是非ともご活用ください。

我が国が年間 ART 治療周期数 40 万以上の生殖医療大国となって久しいですが、2021 年の生殖医療ガイドライン発刊、2022 年からの生殖補助医療の保険収載と、より質の高いエビデンスに基づいた治療が求められる状況にあります。さらに新規検査・治療方法の開発に向けた研究成果もこれまで以上に期待されています。RMB 誌がこのような基礎・臨床研究の発表の場として国内外の研究者・臨床家に活用され、世界に誇れる生殖医療・医学の国際的英文雑誌として、さらに発展しますように、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2024 年 7 月吉日

日本生殖医学会編集担当理事

RMB 誌編集委員長

岩瀬 明